



人道の丘公園開園20周年記念町民海外派遣

～ポーランド・リトアニア・ドイツの旅～

去る9月25日から10月2日までの8日間、人道の丘公園開園20周年記念町民海外派遣事業として町民のみなさんに参加を募り、総勢28名でポーランド・リトアニア・ドイツを訪問してきました。当初、イスラエル訪問を予定しておりましたが、同国の政情不安のため急きょリトアニアに変更し、杉原千畝氏の遺徳を偲ぶ旅となりました。

今回、なんと言っても強烈な印象を受けたのは、2日目の9月26日に訪れたポーランドのオシフィエンチム市郊外にあるアウシュヴィッツ強制・絶滅収容所でした。

入口には鉄製のアーチに「ARBEIT MACHT FREI 働けば自由になる」の文字が掲げられています。しかし、ここは数百万人ものユダヤ人がナチス・ドイツにより虐殺されたホロコーストの最たる現場であります。現地のガイドさんが日本語で説明をしてくれました。

家畜同然、貨車に過密に詰め込まれ収容所へ

労働できない高齢者・幼児・衰弱の激しい人は選別され、ただちにガス室へ

女性も頭を丸坊主にされ、登録のため入れ墨を入れられ

被収容者は空腹で骨と皮だけに

女性や子どもを医師が生体実験の材料に

死体の指輪や金歯は外され、髪の毛を切り取り加工用に工場へ

これは拷問の道具、この部屋は狭い独房、ここは死体の焼却場など

残忍な虐待をあげれば枚挙にいとまがありません。展示物は、この人たちのおびただしい衣服・靴・鞆・メガネ・義足などでした。中でも、撮影禁止にされていた髪の毛の山は見るに堪えないものでした。

参加者は一様に気が滅入ってしまいました。多くの外国人が訪れていましたが、思いはみな同じであったと思います。

3日目からは、中世に建てられたお城や教会を中心に見学し、気分も少しずつ晴れてきました。ヨーロッパの建造物はスケールが大きく、ゴシック様式とかバロック様式とか言われる豪華な装飾、彫刻、絵画で埋め尽くされていました。王様や司教は、さぞ力があつたのでしょうか。

5日目の9月30日は、リトアニアの首都ヴィリニウスにある在リトアニア日本国大使館を表敬訪問し、白石大使と懇談しました。大使からは、カウナス市にある杉原記念館の老朽化対策のため、日本国内で援助資金を集めるための口座を用意していただける団体を探しており、援助していただきたいとの話がありました。

杉原記念館は前日に訪問しましたが、建物は意外に小さく、杉原氏を紹介するパネルや写真が所狭しと展示されていました。この記念館は民間人が借入金により土地建物を取得して運営しているとのことでした。領事館に詰めかけたユダヤ人の写真をよく見かけますが、そこに写っている門柱は当時のまま残っていました。

また、大使との懇談の途中、参加者の杉山正人さんが八百津祭りの笛を披露されました。ヨーロッパの気候は乾燥しており、乾燥が大敵の篠笛を吹くことは容易ではなかったと思いますが、みごと演奏され拍手喝采でした。

今回の町民海外派遣事業には、名誉町民の吉田茂様もご同行いただきました。訪問先はどこも長時間歩いての見学となりお疲れになられたと思いますが、吉田様の穏やかで優しいお人柄を拝見し、名誉町民にふさわしいお方だと改めて感じました。そして、中学生や町民の海外派遣事業が吉田茂国際交流基金により実施されることに、心より感謝いたします。

8日間の旅は小雨が降った日もありましたが、気候もよく食事も美味しく、東欧の歴史の一端を見聞することができました。参加者一同、この機会を与えていただきましたことに感謝し、町民海外派遣事業の報告とさせていただきます。